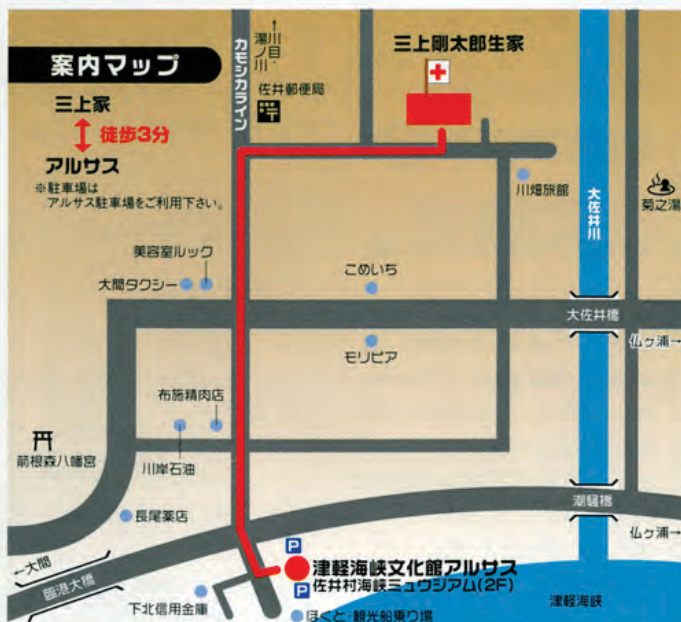


# 三上剛太郎の生涯



## 三上剛太郎 略年表

1869年	(明治2年)	11月15日、生まれる。
1875年	(明治8年)	佐井小学校(同年11月3日創立・岩清水家宅)へ入学する。
1883年	(明治16年)	函館で勉強に励む。
1884年	(明治17年)	5月、三田英学校(現錦旗学園高等学校)へ入学する。
1888年	(明治21年)	読売新聞社に入社し、社会部記者となる。
1894年	(明治27年)	1月、済生学舎(現日本医科大学)へ入学する。12月18日、医術開業前期試験に合格する。
1895年	(明治28年)	6月9日、医術開業後期試験に合格する。6月29日、医術開業免許状を授与される。7月、佐井村に帰村し開業する。
1897年	(明治30年)	1月、伝染病研究所(現東京大学医科学研究所)で細菌学を研究する。
1902年	(明治35年)	3月31日、村医となる。
1903年	(明治36年)	10月、国立伝染病研究所(現東京大学医科学研究所)で伝染病研究方法の講習に従事する。
1904年	(明治37年)	4月4日、盛岡連隊徴兵検査に従事する。9月1日、歩兵第三連隊補充大隊へ配属され、予備役見習医官となる。
1905年	(明治38年)	1月7日、陸軍三等軍医となり、第八師団衛生隊付きとして日露戦争に出征する。1月27日、剛太郎は、満州黒溝台三尖包包帯所において手縫いの赤十字旗を掲げる。2月14日、正八位を授与される。
1906年	(明治39年)	4月1日、従軍記章、勲六等単光旭日章、功五級金鷄勲章を授与される。9月1日、弘前衛戍病院勤務となる。
1909年	(明治42年)	陸軍二等軍医となる。
1915年	(大正4年)	4月、帰村し、開業する。11月10日、大禮記念章を授与される。
1928年	(昭和3年)	従七位を授与される。
1940年	(昭和15年)	紀元二千六百年祝典記念章を授与される。
1956年	(昭和31年)	米寿の記念として佐井小学校・佐井中学校へ図書費各10万円を寄付する。(三上文庫創設)
1957年	(昭和32年)	紺綬褒章を授与される。
1960年	(昭和35年)	保健衛生功労者として青森県褒章を授与される。
1962年	(昭和37年)	2月11日、佐井村名誉村民となる。
1963年	(昭和38年)	赤十字銀色有功章を受賞する。
1964年	(昭和39年)	10月27日、「人生百歳に満たず、常に千載の憂いをいだく」という言葉を残し永眠する。(享年94歳)





### お問い合わせ

〒039-4711 青森県下北郡佐井村字糠森 20

## 佐井村教育委員会

TEL.0175-38-4506 FAX.0175-38-4512



赤十字の心に生きた医師

# 三上剛太郎

赤十字の旗ひるがえる里  
そこには、仁愛の精神が生きている

青森県佐井村

村の医療に献身した名家

## 三上剛太郎生家

(佐井村有形文化財指定)



江戸時代より現在に至るまで約280年間、医家として活躍され、赤十字の心に生きた医師三上剛太郎を輩出した三上家を平成17年度に改修保存し公開しました。赤十字の旗ひるがえる里づくりを推進する佐井村を象徴する文化財です。館内には、レントゲンをはじめとする医療器具を展示し、私財を投げ打って地域医療に貢献された三上家の偉跡が伺えます。また、三上剛太郎のアニメビデオ「ひるがえれ赤十字の旗～三上剛太郎物語～」を無料で観賞できます。

今に受け継がれる三上剛太郎の仁愛の精神と三上家の歴史がここに…

### INFORMATION

● 三上家・佐井村海峽ミュージアムともに

開館時間 4月29日～10月31日/午前9時～午後3時

休館日 月曜日(月曜日が祝日の場合は翌日)  
年末年始(11月1日～4月28日まで)

軍医・三上剛太郎の遺品を展示

## 佐井村海峽ミュージアム

(津軽海峽文化館アルガス2階)



佐井村海峽ミュージアムでは、三上剛太郎の軍医時代の遺品を展示しています。展示品としては、軍服やマント、勲章、サーベル、手紙等のほか、三上剛太郎のアニメビデオ「ひるがえれ赤十字の旗～三上剛太郎物語～」の原画等も展示しています。

また、赤十字活動のコーナーを設け、現在の赤十字活動の紹介もしています。

### EPISODE 1

#### 仁愛の医師誕生

1869年(明治2年)11月15日、三上剛太郎は、代々医家である三上家の8代目として誕生しました。



1884年(明治17年)、父子恵に伴われて上京。三田英学校(現錦城学園高校)に入学し、医師への第一歩を踏み出しました。

ところが、在学中に文学者森田思軒の影響を受け次第に文学へ傾注し、読売新聞社社会部記者になりました。

1893年(明治26年)、父が亡くなり再び医師への道を歩みました。翌年1月、済生学会(日本医科大学)に入学し、医術開業試験(前期・後期)に合格、1895年(明治28年)医師開業免許状を取得し、同年佐井村に帰村して三上医院を開業しました。

日露戦争終結後再び佐井村で開業し、幾度と上京を繰り返す。国立伝染病研究所(現東京大学医科学研究所)で医療技術の習得に努めながら地域医療に尽力しました。

### EPISODE 2

#### 生命を救った手縫いの赤十字旗

1905年(明治35年)1月、日露戦争の時、三上剛太郎は満州(今の中国北東部)へ軍医として従軍しました。ロシア軍に包囲され、今まさに攻撃を受けようとしていた仮包帯所に「手縫いの赤十字旗を」掲げて、多くの負傷者の命を救いました。



手縫いの赤十字旗  
※日本赤十字社青森県支部蔵

この赤十字旗は三角巾2枚で四角にし、赤毛布を切り裂き、十字をつくり縫い合わせたものです。

1963年(昭和38年)、スイスのジュネーブで開催された赤十字100周年記念博覧会で「手縫いの赤十字旗」が展示され世界の人々に深い感動を与えました。

戦場で作られた赤十字旗は、人類のヒューマニズムを基にしてつくられた「ジュネーブ条約」の生きた証として残されています。

### EPISODE 3

#### 死ぬまで勉強

医学・政治学・哲学・宗教・歴史・文化などあらゆる分野の書物を読破した剛太郎。80歳を過ぎからは少年時代の夢であった「レ・ミゼラブル」を原語で読むため辞書を片手に独学でフランス語をマスターした。「死ぬまで勉強」は剛太郎の口癖でした。



#### そして今、私たちは…

佐井村では、三上剛太郎の仁愛の精神を受け継ぎ、心の中に赤十字の旗をひるがえし、人にやさしくともに生きる社会を目指し、「赤十字の旗ひるがえる里づくり」を推進してまいります。